第3号

宮西通信

ICHINOMIYA CITY 2021
3.10.1
発行：宮西連区地域づくり協議会 一宮市文京一丁目3-1（宮西公民館内）TEL/FAX 0586-23-7431

令和３年度 提案事業の実施について

宮西連区地域づくり協議会
会長 岩田 茂樹

日頃皆様には地域づくり協議会の活動に何かとご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、前号にてお知らせしました令和３年度提案事業、「命のバトン事業」「防災事業」を実施いたします。

「命のバトン事業」は、７５歳以上の皆様を対象に配布を予定しております（配布本数は家族構成により変わります）。配布につきましては、１０月初旬より町会長の皆様にお願いしています。バトンの取り扱いは、同封の説明書でご確認ください。

また、「防災事業」は宮西公民館の敷地内に防災用物置を設置し、緊急時等に利用できる折り畳み式リヤカー３台を収納する目的の事業で、間もなく完了します。

今後も地域づくり協議会ではコロナ感染予防に留意し運営してまいりますので、皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

愛知県内で自転車を利用する皆様へ

自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例

愛知県では、自転車に係る交通事故を防止するため、令和３年３月に「自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」を制定しました。

7月の町内回覧にてお知らせしました自転車の安全についての条例に関して、一宮市でもヘルメットの購入補助が始まりました。（期間限定、予算内の実施につきお早めに。）

担当は市民協働課（TEL：28-8671）です。申請には、代金の支払い手続きが完了したと確認できる領収書などが必要になります。（HP検索ワード：一宮市　自転車ヘルメット）

また、義務化される保険加入については、ご自身が現時点で自転車保険に加入しているかどうか、今一度、現在ご加入中の各種保険などの、内容の確認や見直しからお願いします。

今後も、**交通ルールの遵守**（自転車は左側通行、一時停止は止まれ）や**歩行者等への配慮**、**自転車の点検整備**、**盗難防止対策**などお願いいたします。

令和３年10月１日施行

大人も子供も乗車用ヘルメットを着用

- 自転車を利用するときは、乗車用ヘルメットを着用するよう努める

４月１日から ヘルメットの購入補助制度スタート！

自転車損害賠償責任保険等への加入 義務

- 自転車損害賠償責任保険等に加入しなければならない

あなたはもう加入していますか？ 自転車損害賠償責任保険等の加入

年齢制限あり

みなさんの宮西公民館

一宮市立宮西公民館
館長　森　　雅昭

公民館のご利用いつもありがとうございます。

連区のみなさんに日頃大切に利用していただき、今年で45年を迎える宮西公民館です。地域の生涯学習の場として、あるいは会議の場やクラブ活動等の場として少しはお役にたてればと思っております。

さて、公民館は地域に根ざした文化活動、学習活動の場であり、連区のみなさんの生涯学習や交流とふれあいの場として、いつでも・だれでも・気軽に利用できるように設けられています。

公民館の主な事業について説明します。

1　公民館事業

公民館では、地域の自然条件や生活・文化・人材などの特色を十分生かし、様々な年代の方が、必要とする学習機会を選択できるよう、公民館の６つの事業部で各種の学習プログラムを企画し実施します。

（1）魅力ある地域づくり事業

まちづくり、世代間交流、地域の歴史・文化、コミュニティなどに関する事業を行い、思いやりと連帯に満ちた魅力ある地域づくりを推進する。

（2）家庭・青少年学習事業

青少年対象の体験活動、ボランティア活動、親子で参加できるふれあい活動、その他青少年活動や家庭教育に関する事業を行い、豊かな人間性を育てる。

（3）成人・高齢者学習事業（成人教養講座）

教養講座、趣味講座、専門講座、講演会、その他の学習活動に関する事業を行い、社会生活を送る上で直面する、様々な課題を解決するための力を育てる。

（4）女性学習事業（女性学級）

教養講座、趣味講座、専門講座、講演会、その他の学習活動に関する事業を行い、女性の資質向上を図り豊かな人間性を養う。

（5）学習発表会事業（文化展）

学習成果の場を提供し、学習者の目標設定や知識・技術の向上を図る。公民館の講座や公民館利用グループだけでなく、連区の住民の参加も呼びかける。

（6）体育レクリエーション事業（運動会など）

生涯スポーツ、レクリエーション活動を通じて、連区住民の健康、生きがいづくりを推進するとともに、まちづくりや地域の活性を推進する事業を行う。

★それぞれの事業部の事業内容については、５月の広報配布時に全家庭に水色の用紙で配布をいたしました。講座の申し込みについては、７月の広報配布時に回覧板でお知らせしています。ご参加をよろしくお願いいたします。

なお、昨年からのコロナ禍で活動の参加人数が制限されたり、中止になる場合もありますので、公民館からのお知らせをご覧ください。連区運動会については、今年度は一宮市からの指示で中止とします。

1階和室

1階小会議室

2階大会議室

2　公民館定期利用グループ・宮西連区スポーツグループ

公民館では公民館利用グループの活動のために大小の部屋があり、原則として連区住民の団体・グループの方に無料で利用いただけます。

なお、限られた施設をみなさんが有効に利用していただくため、利用方法があります。詳しくは公民館にお尋ねください。

3　貸館業務

連区の町内会や団体等の会議や研修会・行事等などに公民館の貸し出しを行っております。利用時間は原則午前９時から午後９時までです。

公民館の休館日は普段はありませんが、１２月２８日から翌年の１月４日の年末年始は休館になります。利用される場合は、利用希望日の２か月前の１日から受け付けています。

ただし、公的行事への貸し出しが優先されますので、公民館にお尋ねください。

公民館を取り巻く社会状況は、公民館が創設された時代とは大きく異なってきました。公民館を知らない世代や、一度も公民館に足をはこんだことのない人もいます。若年層の公民館離れも著しいものがあります。

さらに日常生活において地域社会とのつながりが少なくなってきたといわれています。**若い世代を含む多くの人に公民館を知ってもらう、公民館で地域の連帯意識を高める、時代にあった公民館事業を展開します。**

そこで、健康、人権、豊かな人間性、家庭・地域、世代間交流、まちづくり、コミュニティづくり、高齢社会、ボランティアの推進などの時代に即した課題をテーマにして取り組んでいきたいと思います。

最後になりましたが、これらの課題を実現させるためには、宮西公民館の施設・設備が時代に合わなくなっているのが現実です。部屋数の問題、多目的に使用できる調理室などがなく、利用者のみなさんに不便をおかけしています。バリアフリーではないため高齢者や身体に障害をお持ちの方の利用が困難になっています。**連区の皆さんのお力を頂き宮西公民館のリニューアル事業を是非実現していきたいと思っています。**

「宮西老人クラブ」紹介

老人クラブに入ってみませんか？老人クラブは、全国老人クラブ連合会から都道府県老人クラブ連合会、市区町村老人クラブ連合会、単位老人クラブに至る、全国で約10万クラブ約550万人の会員を数えています。

平安時代に長寿を祝った尚歯会を起源に、明治から大正にかけて地域の高齢者団体として全国各地に普及。昭和に入り、戦後は長寿を祝うばかりでなく、老後の豊かな人生を送るための地域団体として、国も老人福祉法を制定して普及拡大にあたってきました。

もちろん、地元宮西連区にも老人クラブはあります。宮西老人クラブの令和３年度当初の会員数は、男性139人と女性245人の総勢384人。**地域主催のことぶき講座への参加、社会福祉協議会主催の敬老会への参加、一人暮らしの会員に対する友愛訪問。**また、８つの支部では**児童見守り、世代交流、ラジオ体操、各種スポーツ推進（太極拳・グランドゴルフ・ペタンク・インディアカ）、教養講座、清掃活動**などに取り組んでいます。

しかし、会員の高齢化や人と人との繋がりの希薄化、また豊かな老後を送るための情報があふれ、残念ながら老人クラブは減少の一途を辿っているのが実情です。宮西連区も、入会対象年齢の60歳以上3,647人からすると、その加入率は10.5％と一宮市内23連区の平均加入率20.8％を大きく下回っています。

ちなみに、加入率が最も高いのは奥町連区の35.3％、そして葉栗連区の35.2％。お隣の貴船連区も33.7％と高く、宮西連区の加入率は23連区中20位と低迷。野村悦治会長も、60歳を迎えたら老人クラブに入っていただけるよう、魅力ある事業を考えながら会員拡大に努めてみえます。

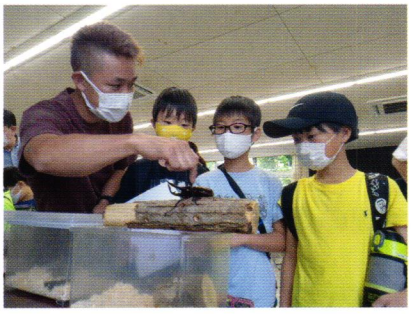
定年退職などでのリタイア後、支部ごとの楽しい老人クラブ活動を通じて、ちょっとした地域貢献や絆ある仲間づくり。そして、いきいき暮らすための健康維持など、それまで希薄だった地域との繋がりを深めるのに、ぜひ宮西老人クラブに入会してみてはいかがでしょうか。これからも心豊かに暮らしていく地域で、きっと生きがいや、やりがいが見つかるはずです。会費は年間1,000円です。

連絡先 野村悦治 090-6582-5995までお尋ねください。

（編集担当：高橋　一）

行　事　報　告

初めての「生き物教室」 盛況でした



宮西地域学校外活動推進委員会
会長　森　　雅昭

8月1日（日）に宮西公民館で「生き物教室」を開催しました。講師をしていただいた「一宮の昆虫博士」の高原寛徳さんより、様々な昆虫の標本や生体、古代生物の化石などの見学をさせて頂きました。講義の中では地球の生い立ちから、恐竜などを中心に生き物の進化、昆虫などや今の地球環境について詳しく楽しい解説をされ、児童の興味をそそる内容になりました。また、児童からの質問にも、今の人々の生活についてどのようにしていけば地球にやさしいかを答えられていました。

今回は初めての開催で予想を上回る参加申し込みがあり、コロナ禍の中、早めに申し込みを打ち切り、児童の皆様にはご迷惑をおかけしました。次回からは、幅広い「生き物教室」を実施したいと思います。昆虫にあまり興味がない児童も楽しめる教室にしたいと考えています。

次回は１２月１日に発行します